

甲斐の国 水災・減災セミナー

近年、地球温暖化が原因と考えられる大型台風や局所的な集中豪雨が懸念され、洪水被害の危険性が高まっています。甲府盆地に残る災害との戦いの歴史、この教訓を現代に生かしましょう。

第一部 基調講演

山梨の風土に刻された災害の宿命 ～災害の世紀・防災・減災を考える～



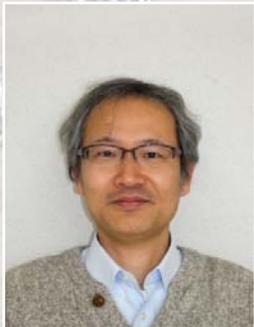
講師：竹林 征三氏

工学博士、富士常葉大学 名誉教授、
山口大学 時間学研究所 客員教授

東日本大震災以降、過去になかった諸々の災害が次々起こり、日本列島は巨大災害の世紀に突入したと言われている。

日本列島は九つの災害の宿命を背おっている。山梨は四周山に囲まれた地であり、九つの災害の宿命が凝縮した地である。この地の先人は宿命と闘いこの地を切り開き誇り高い甲斐の国をつくった。風土には先人の知恵と労苦が各所に刻されている。先人の知恵の深さに敬意を表し、学び子孫に伝えていかなければならない。

第二部 セミナー



堤の原風景～南アルプス市の人々の命を守った堤防のはなし～

南アルプス市の歴史は、水との闘いの歴史だったことがわかっています。なかでも、戦国時代以降、釜無川の本流が、西へ西へと移り変わり、押し寄せるようになった川の水に、人々はどのように立ち向かってきたのか…。地域を守る堤防はどのようなもので、どのようにその堤防を守り、地域を守ってきたのか…。地域に残された古文書や絵図から読み解きます。

講師：田中 大輔氏

南アルプス市教育委員会文化財課副主幹



霞堤による減災のための保全

水害は堤防等により防ぐ必要があるが、破堤のような大水害を回避するには堤防以外の手段も考えておかなければならない。

南アルプス市にある霞堤は上流で破堤氾濫した時に、下流の地域を守るすぐれた減災機能を有しており、この機能を生かしていく方法を考えていくことが重要である。

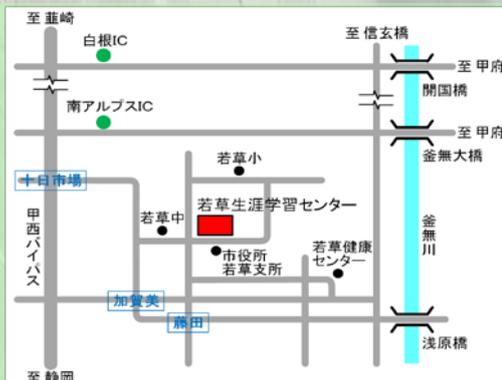
講師：末次 忠司氏

山梨大学大学院 医学工学総合研究部
国際流域環境研究センター 教授

日時：平成26年3月29日(土) 13:30～16:15
(受付13:00)

会場：「南アルプス市 わかくさホール」
若草生涯学習センター内(南アルプス市寺部)

入場無料, 事前申込不要



主催：甲府河川国道事務所
共催：山梨県、南アルプス市、山梨大学・国際流域環境研究センター
後援：山梨日日新聞社、YBS山梨放送

歴史的治水施設の色々

富士川流域(雨が富士川に集まる範囲)の各所には、歴史的な治水施設が残され、現役の施設が数多くあります。

石積み出し

石積みの堤防で一番堤から五番堤まで残されている。江戸時代には有野集落や水田、さらに下流にある21ヶ村を守る役割を果たしていた。

国指定史跡

御勅使川の本流を高岩の方向(北東)へ向けます(『甲斐国志』)。



有野をはじめ下流の集落や田畑を守っています。



出典(南アルプス市教委)

六科将棋頭

将棋の駒の形をした堤防で、徳島堰から取水し、後田堰を通して将棋頭内に作られた六科の水田や集落、さらに野牛島、上高砂の水田、集落をも守る役割を担いました。

現在は北側のみ残る。
国指定史跡



流れをふたつに分流し水勢を弱めます(『甲斐国志』)。

堀切⇒高岩方向

六科の田畑や集落を守っています。



出典(南アルプス市教委)

信玄堤

武田信玄によって取り組まれた信玄堤は、釜無川と御勅使川の氾濫から甲府盆地を守る機能を発揮しています。

御勅使川の激流を将棋頭で分流させるとともに、新川を掘り割り流路を変更、十六石、高岩で流勢を制御の後に霞堤で柔らかく受け止めて流します。



上流より望む



下流より望む

聖牛(信玄堤)

富士川流域に残されている甲州流川除法のひとつ。

富士川で発祥し、その効果が顕著であるため全国の急流河川で古くから採用されてきました。



万力林

甲府盆地の東側にあつて、笛吹川の洪水流の減勢と土砂補足等を目的に整備され、水害防備林としての機能を発揮しています。

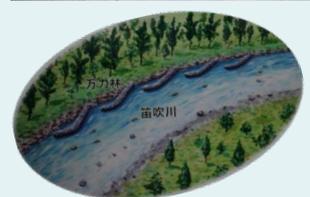
鬱蒼とした老松が大地に根を張り水害防備林となっています。万力という名の由来は、万人の力を合わせて堅固な堤防にする願いが込められたと伝えられています。



雁行堤(万力林)

石積みの堤防。甲州流川除法のひとつ。

信玄公の戦陣の法に「雁行の陣を立て、一陣が破れても、二陣の備えがあり、二陣が破れても、三陣四陣と敵にあたることできる」とあり、飛び行く雁の列のように堤防を築くことにより、川の流れを弱め、流れを変えます。



雁堤

かりがね堤は度重なる富士川の洪水被害を防ぎ、扇状地を新田開発する目的。

この地を治めた古郡氏による。

重高(父)、重政(子)、重利(孫)の3代にまたがり53年の歳月をかけ完成しました。



出し水制(雁堤)

石積みの堤防。

富士川の激流を対岸の山側に撥ねる役割を持つ。

撥ねられた流れは、山にあたり力を弱めた後に下流の堤防や遊水機能を備えた区間を通して安全に流します。

